諸国道中金草鞋　十五

立山紀行

逍遙文庫
文庫6
1004
15

越中立山方言修行金草鞋

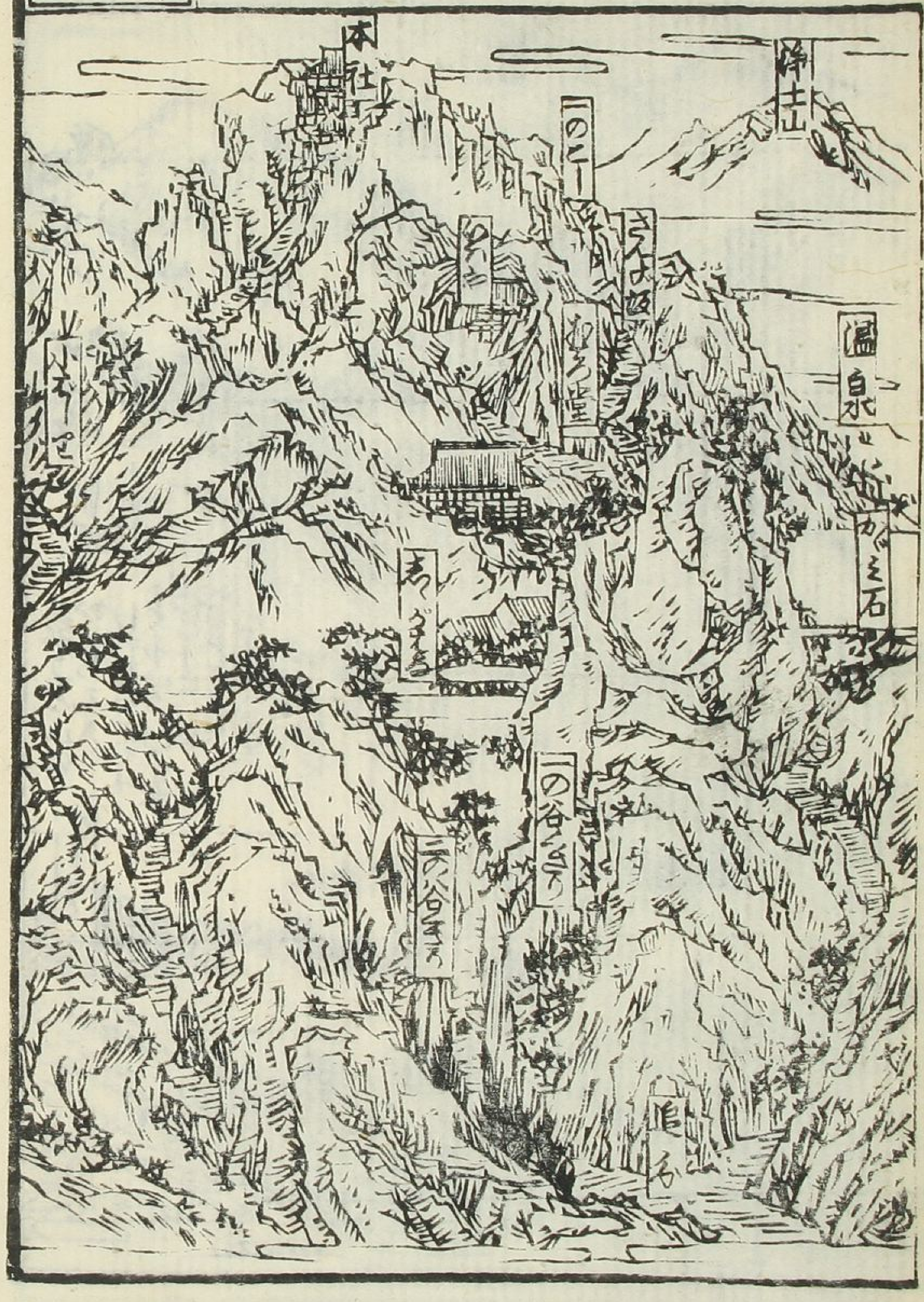
越中國新川郡立山權現ハ伊弉諾尊刀尾權現の社へ
手力尾命なり。當山ハ文武天皇大宝元年二月十六日。領主
四条大納言有若卿の嫡男有頼卿夢想を感じ。説法
ヶ原五智寺の慈朝師に謁し出家して名を慈興と改
め當山を開き。立山權現の大宮および王子眷屬の社を
建立し淨土山を開くと云へり。是より一ノ越と加越に攀上て登
山し給ひし。満山の荘厳奇異にして実に人我を醒さ
の靈場なれバ。信念のあまり。その光景をあらまし遠境の人々
参詣の便とならん事をこふのみ。

文政十一年戊子春肉市　十返舎一九誌

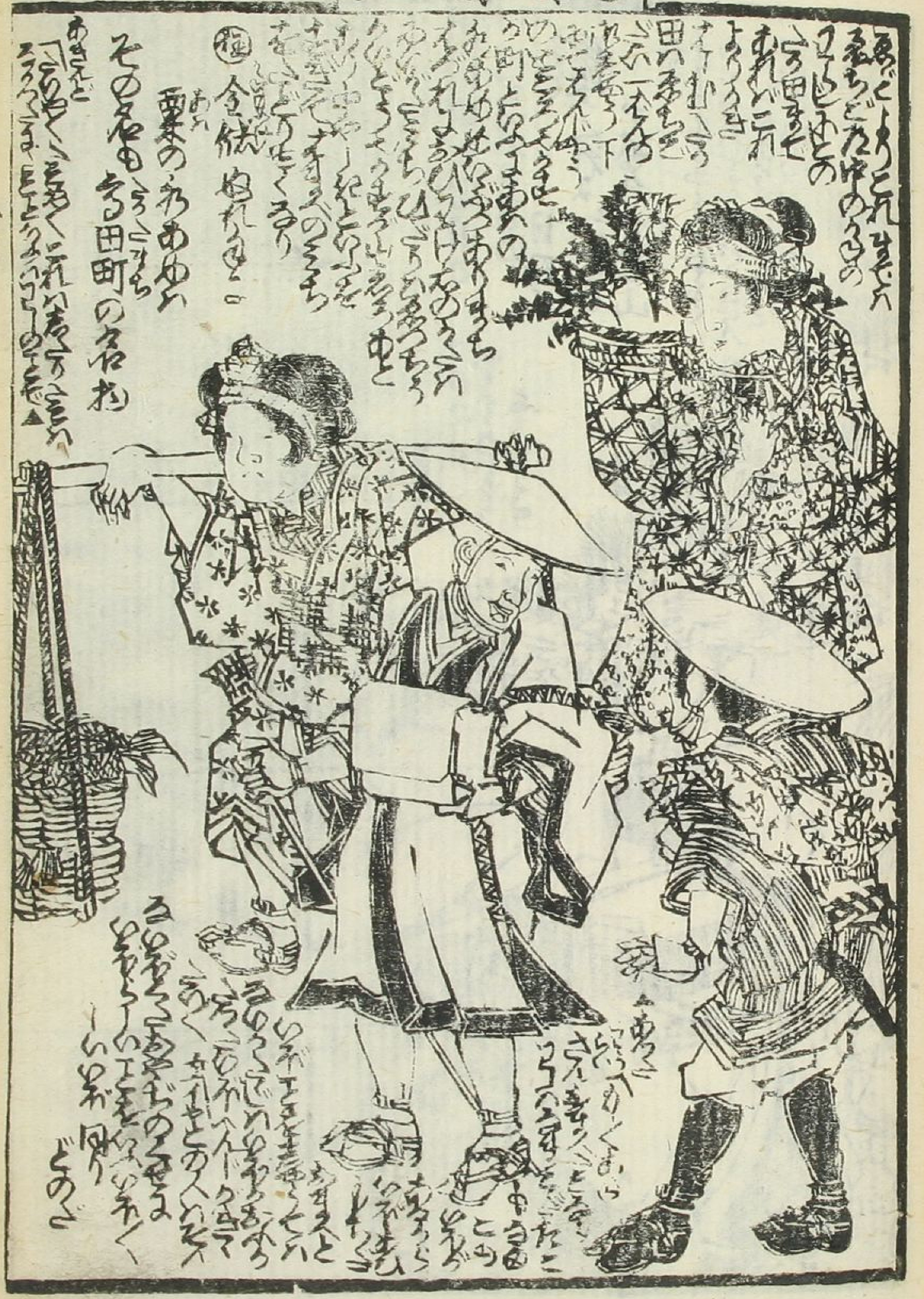
文庫6
1004
15

越中立山之図

其二



越後より高田へ 二リ

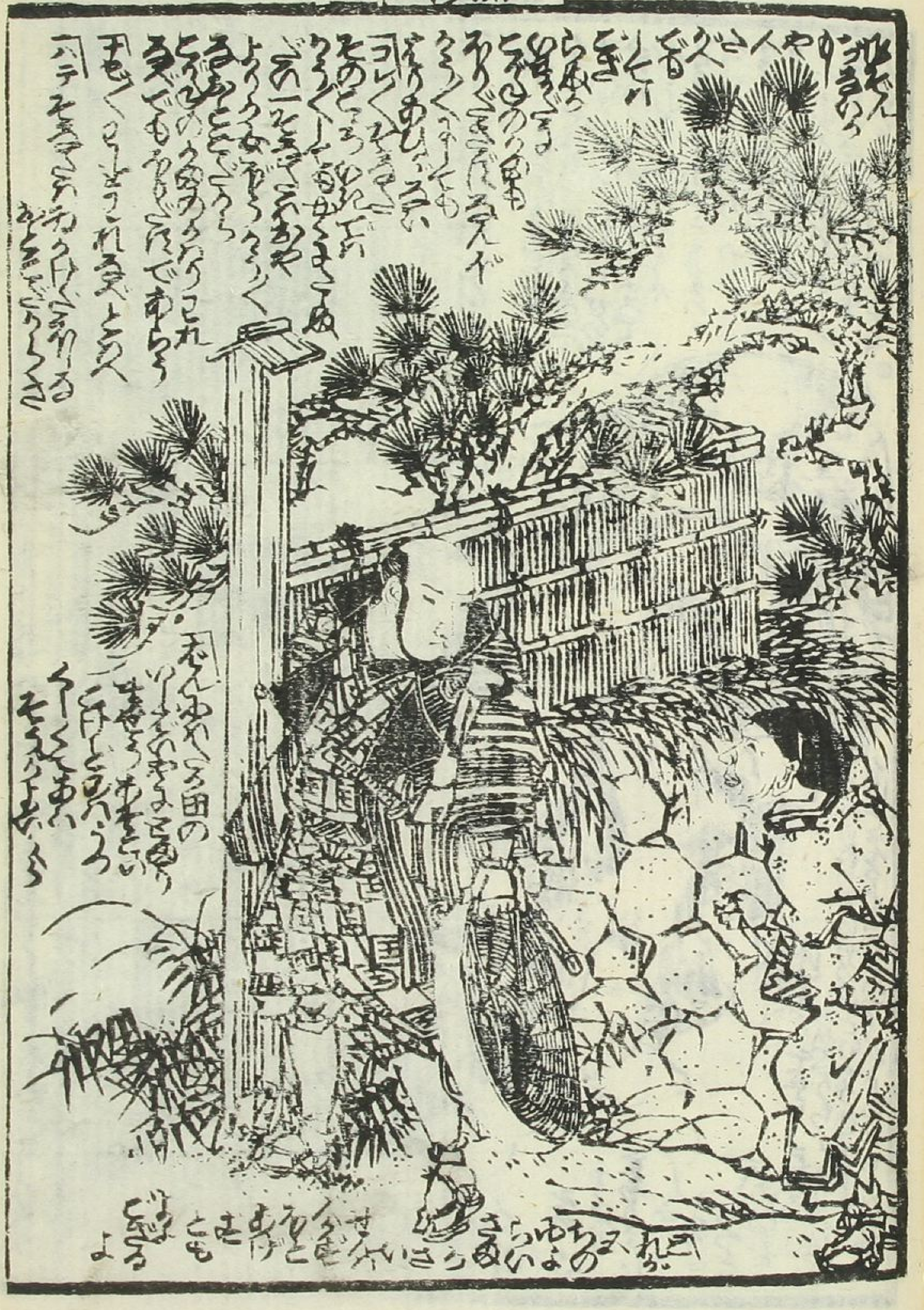


附言

越中立山参詣の道路は東都より中仙道を経て追分より善光寺まで越後高田へ出て越中に入る郷は捍行せし金の草鞋越後泥分は中仙道の善光寺街道は高田までの手をし、あるひはこの道を省きぬ。高田よりすゝめば小陸の親しきを委細にある道は伝へ越中に出松本より飛騨路を通る山まはりて、それより越中に出るは、松本より行程五日ゆくて立山の麓に至る。されども此方は嶮難の山々を越て宿屋もなく休むべき茶店もなし。難渋も山中の岩間に寝て糧もなく飢を凌ぎまでも難渋中々いはずなりけれバ本街道なる高田よりあゆみを勧むるなり。

五智 一リ

長濱 一リ



鍛冶や屋舗ニリ

の能人生ニリ

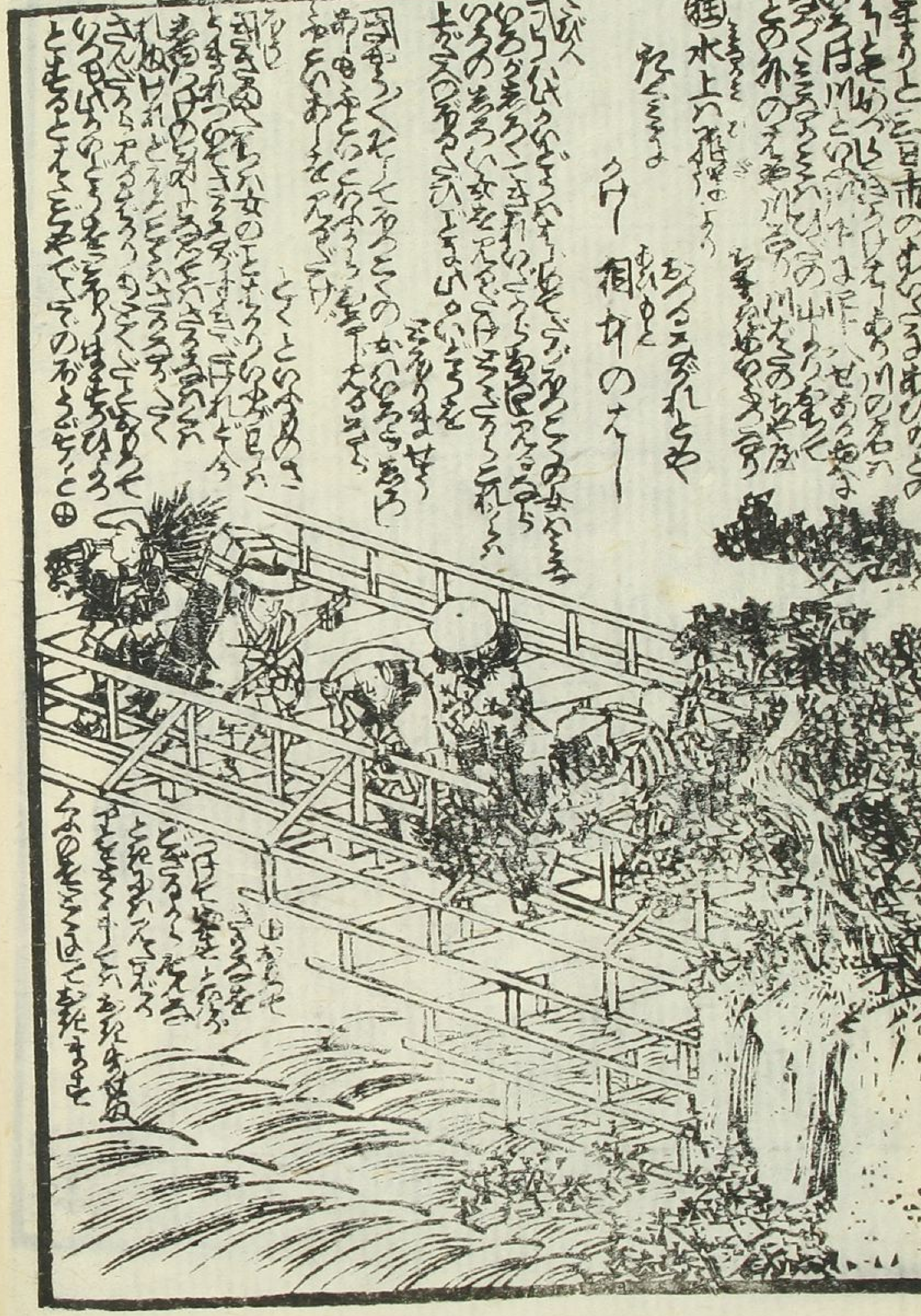
堺 一り

市振 一り

三日市 二り

泊 三り半

相本橋



奥津ゟ滑川迄

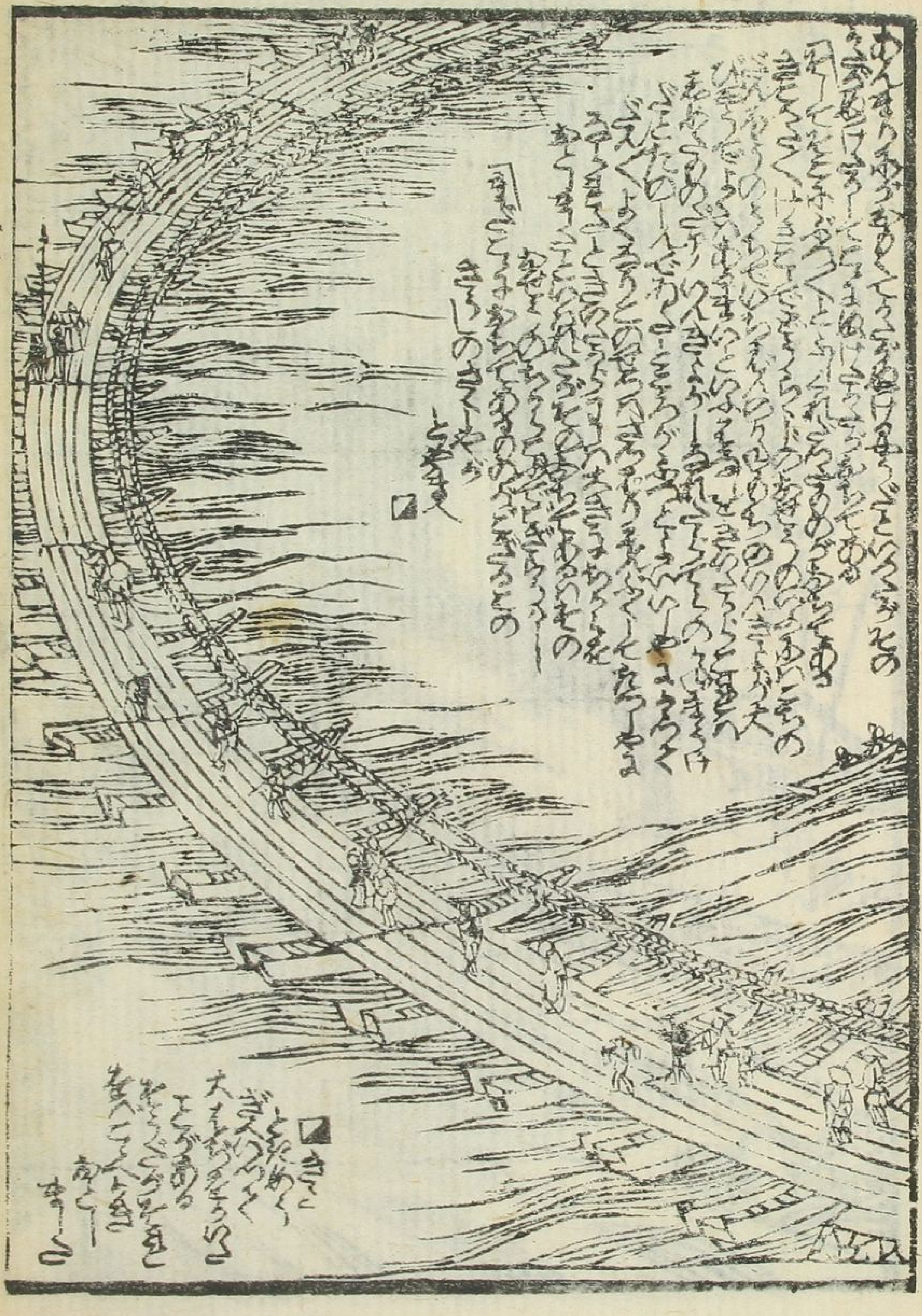
水橋と富山舟橋

めづらしや かゝる大河や 瀬を 舟だしの

自由自在ハ 神通の川

名物の 鮎の すしとく 買ふ人の

あしうけて来る 茶屋の ゆきゝひ



これよりぐそ山さん [illegible]

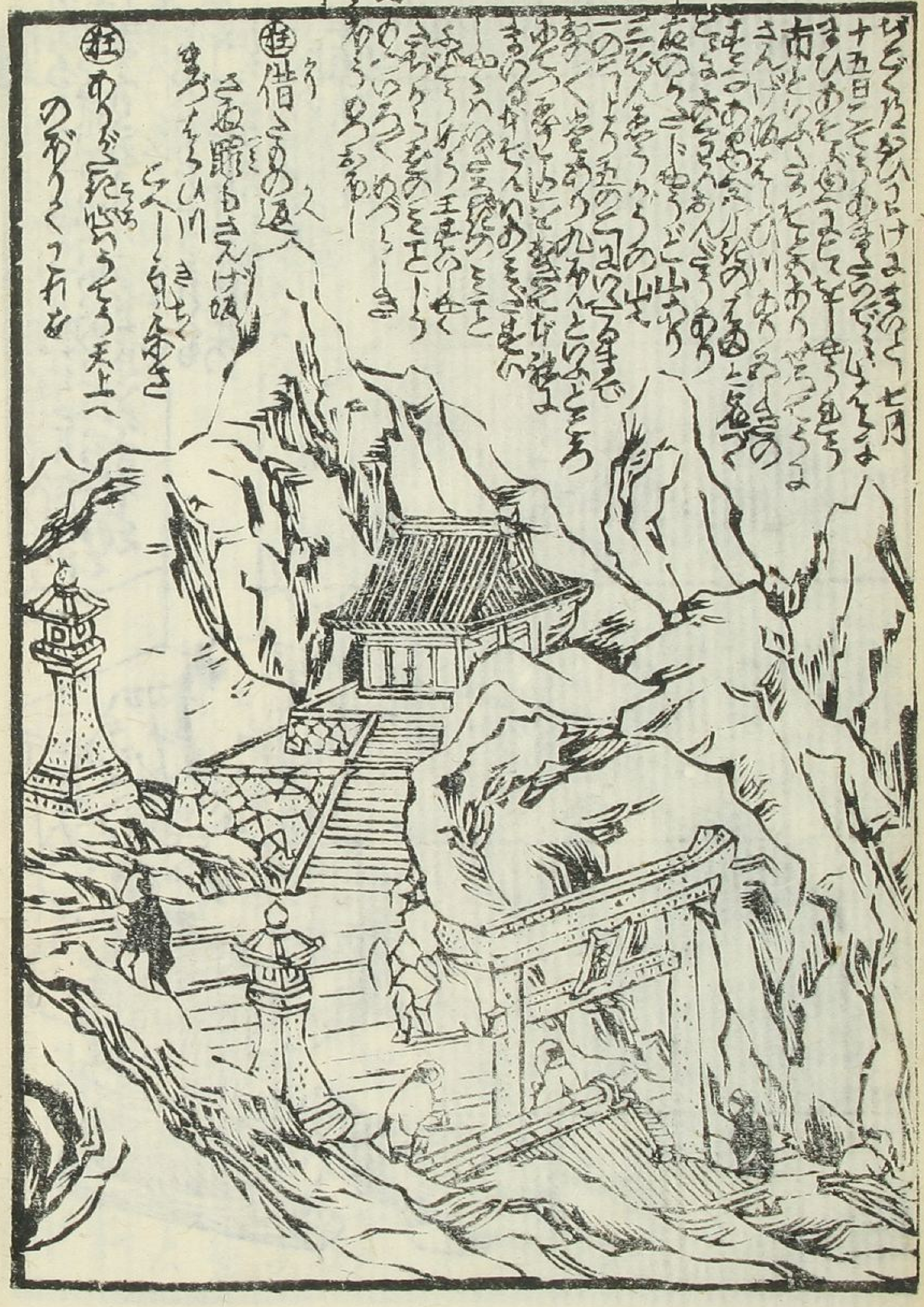
[illegible]

美女ヶ森 二り 伏拝 一り 桑谷 一り

中津原 一り 国見坂 一り

國安画 一九作

絶頂へ本社より山へ五十丁



別山　本社より五十丁

殺光石　擂盆石

白山権現　折立

冨士権現　蛾眉

渡　硫黄　次　王備

行者　抱石

けんらうのたきあり

別山帝釈天堂

大日如来　水の池

これより　五十丁

大走　小走

さいの河原

玉戸の窟　阿弥陀ケ原

来迎の滝　八所

小窟　胎内くぐり

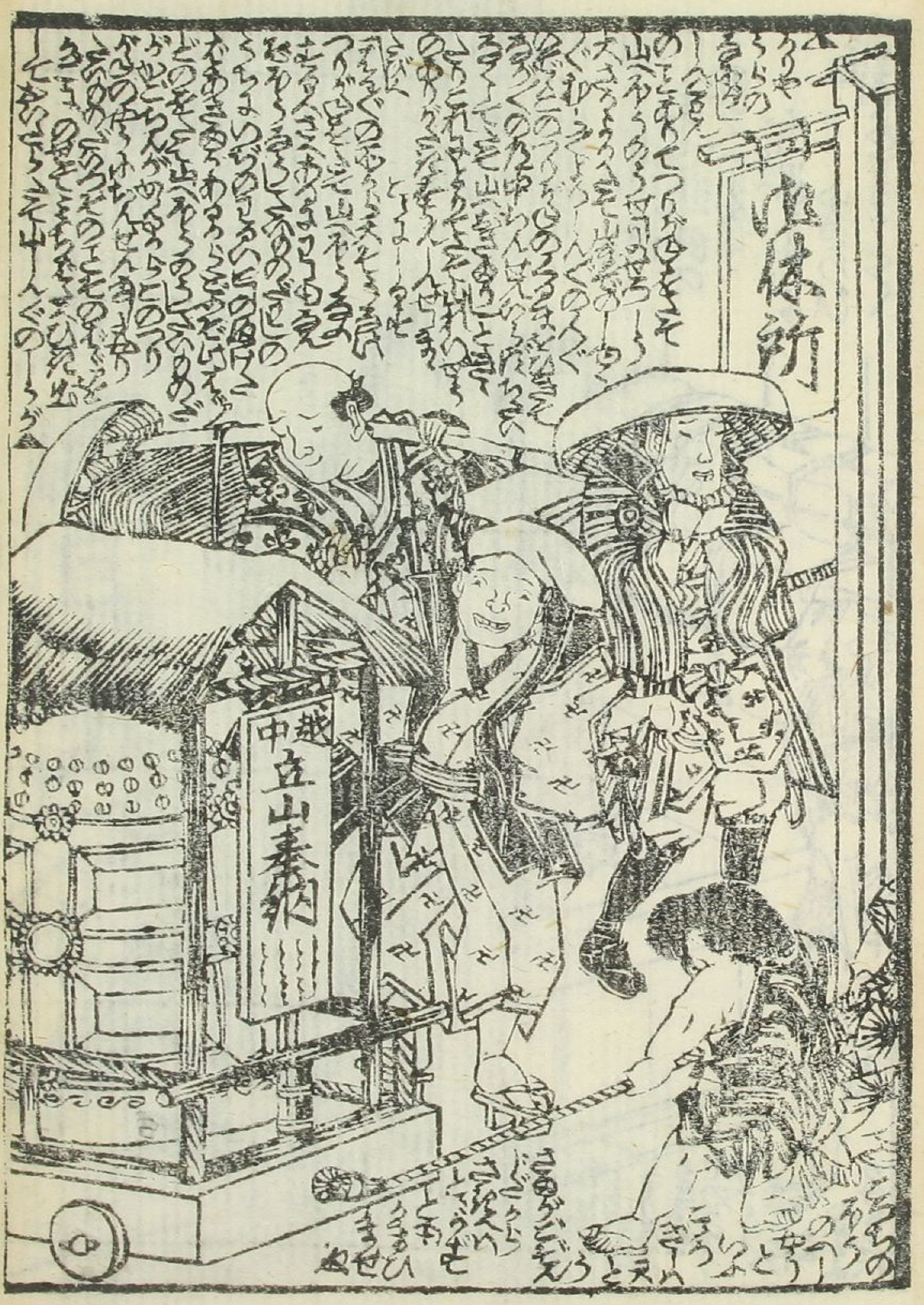
蓮花岩　湯殖の

獄　美久利の池　五十ヶ池

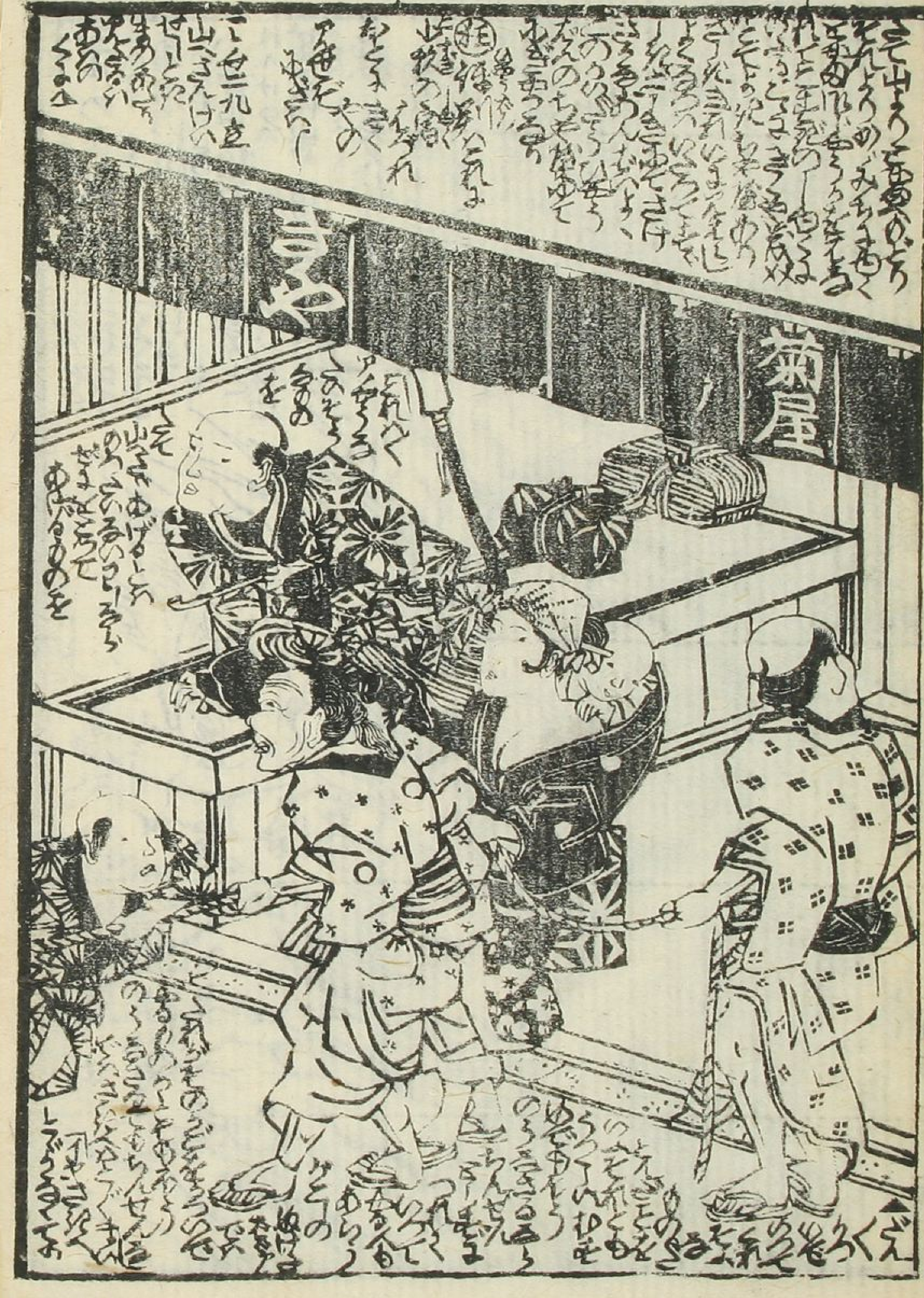
伽羅陀山

谷の

血の池　の山あり



富山三りと小杉行迄



高岡

のとはれ[illegible]

狂 こゝろざま国の名 能登と聞からに いぢらしい[illegible]

[illegible]

それより[illegible]

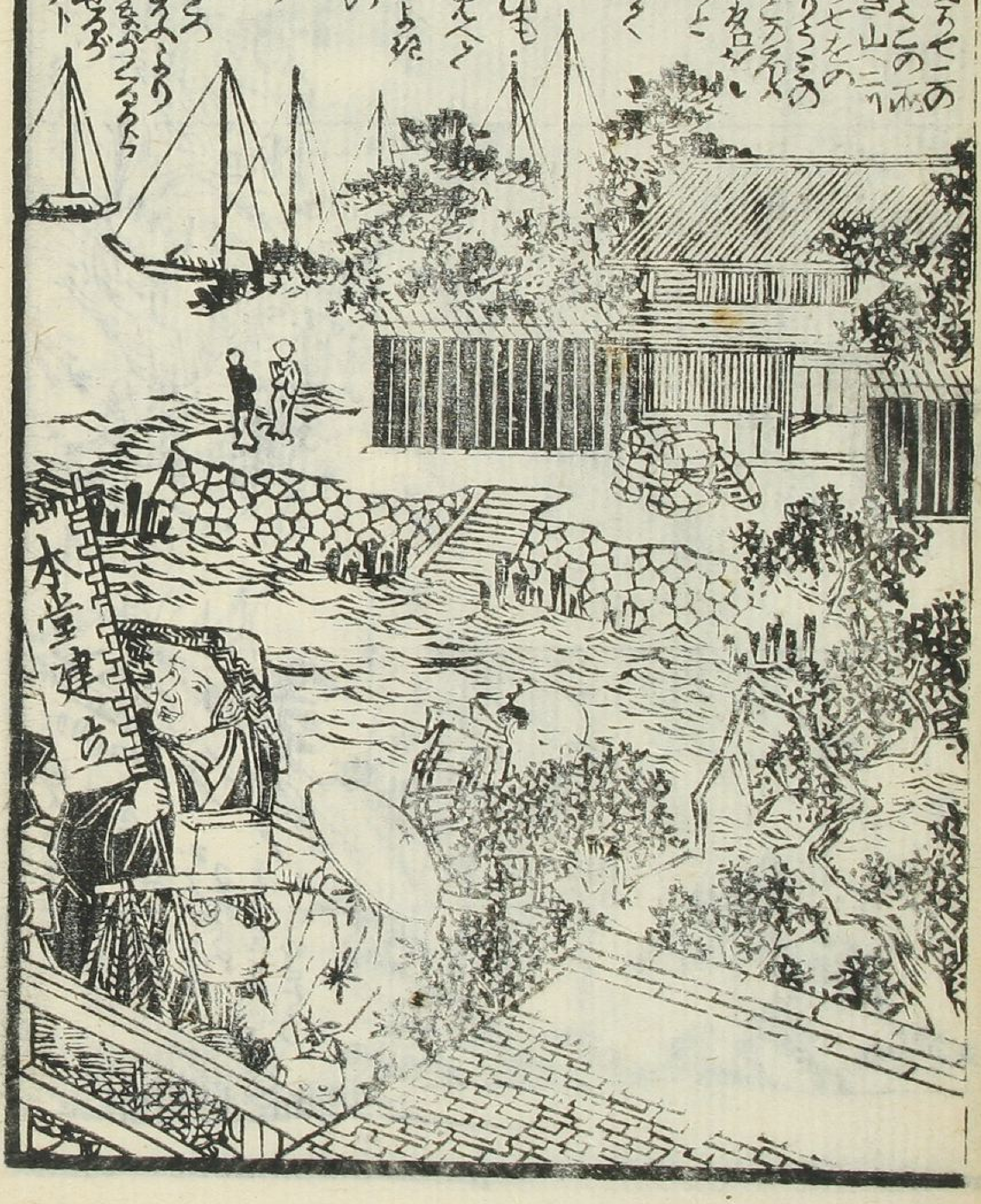
狂 汐の[illegible] 日本の 枕[illegible]

[illegible]

荒山峠

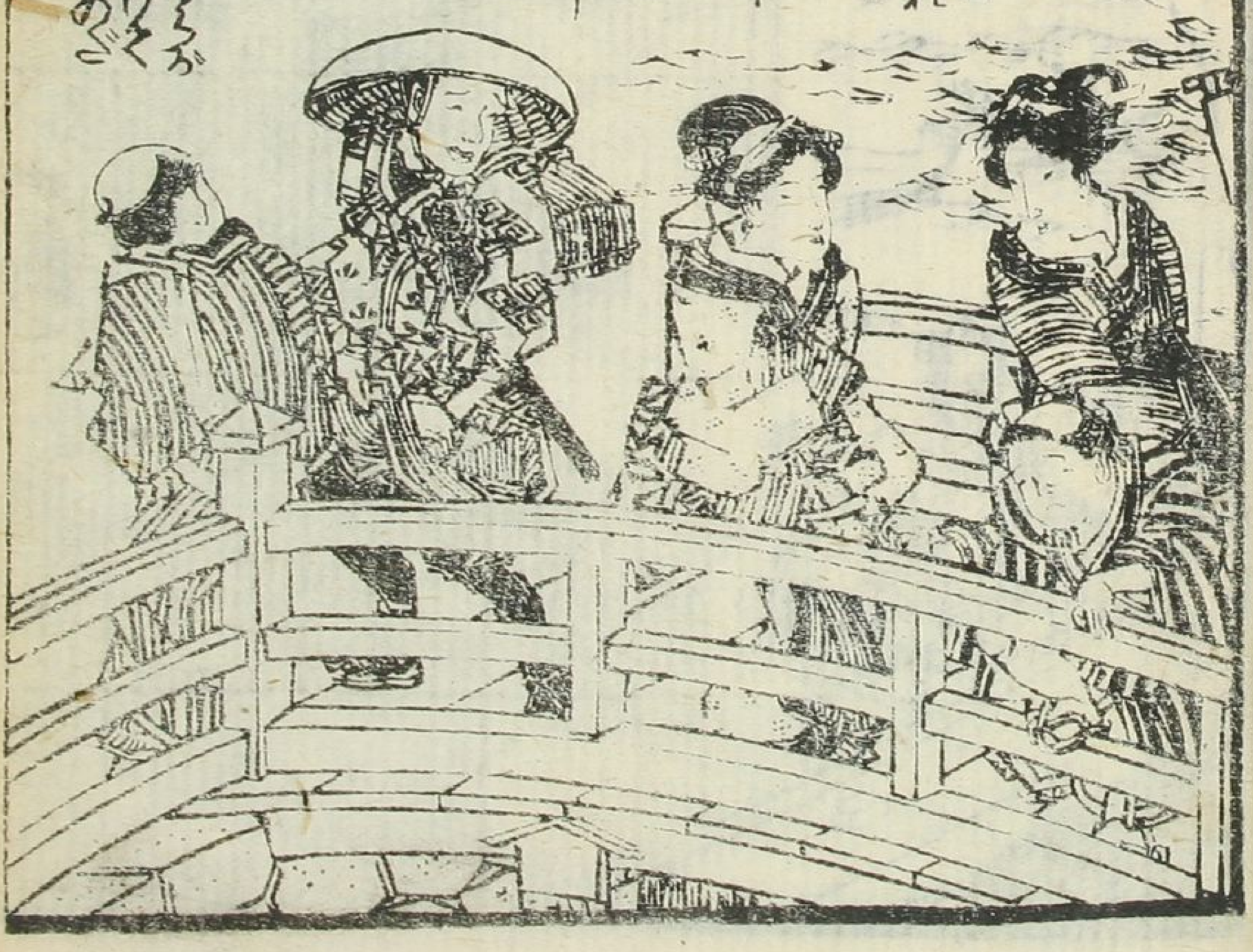
こゝの宮すり

[illegible]



ゑ七を尾三り

[illegible]

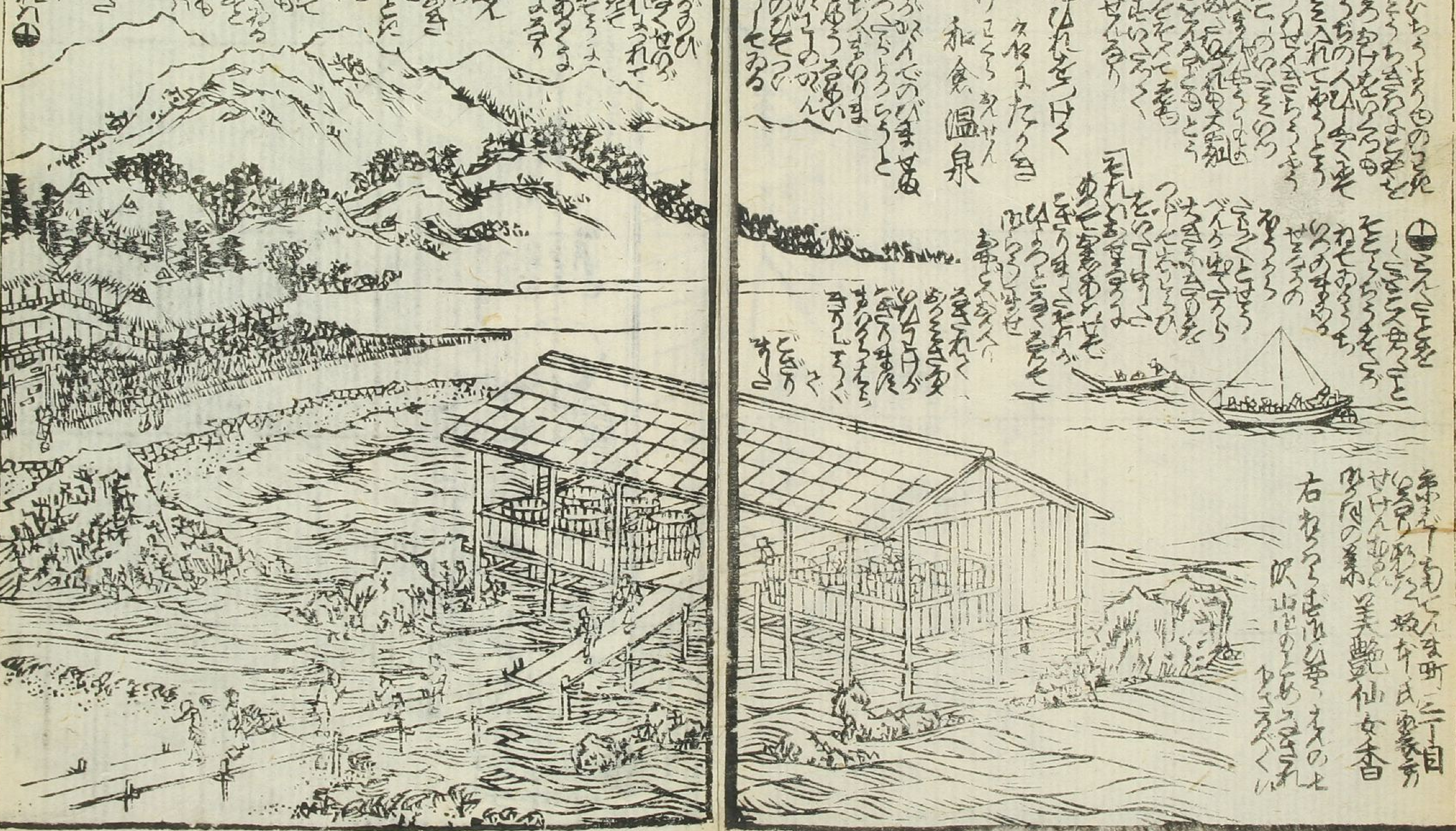


和倉温泉

[illegible]

（狂）功能を不尽の尾びれまでつけく　又はまたたかき
海の中よりわくら温泉

[illegible]

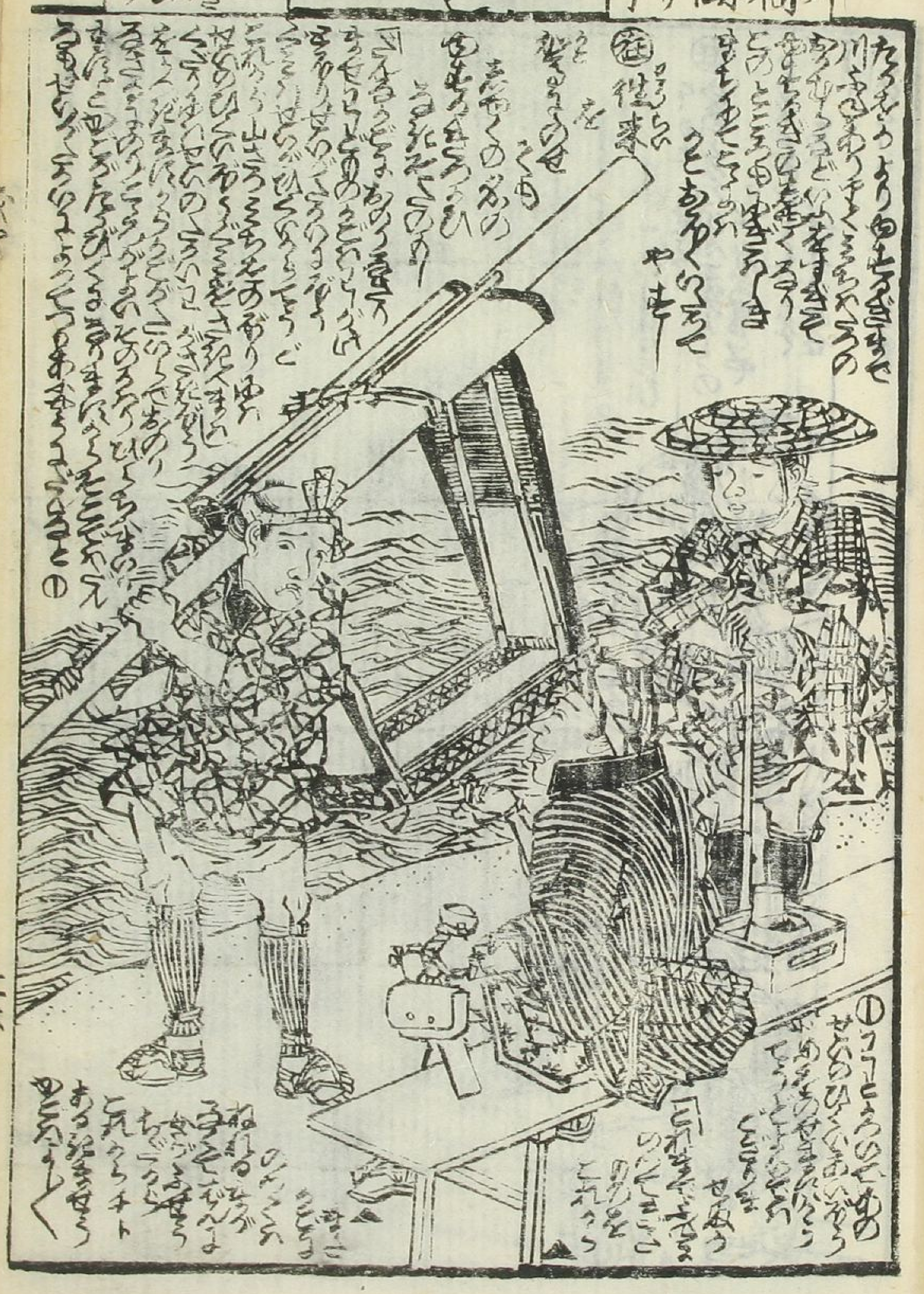


東京てんま町二丁目
坂本氏
せけんぶうひやうの美艶仙女香
右ねうるうちにはきおほくあり
沢山にあり

[illegible]

高岡 四り八丁

石動 三り



倶利伽羅峠

竹之橋

つ津絵田畑罒

金澤

今はきくのけしちらうがうてきまげののびろ
あくへつぞそうらう白山へもさんけいのそろ
ふれがこれようちらせぜんのいとうもあくつ
るれがまづこのうちほどへまでも午八へんとも
わたくしう山さんけいのきちらを十九へんら
しそつのぞ去年えんのつものゆびへんれ
こうそふぞさきうおきぬまつりへうろくの
たび巾つうがろくてめでたし

狂 やれらかく笠は　さしながら
　　なうき　鉢巻
　　ふえ　ちそてきこつくされぬ
　　会のつもらしぬ

○此度中それよりかやとて
ほくへよりむきるのひとの
られけりのこまでもまてもそるる
めうらくけいへへはう入てござ古国
西そも旧ふ話のとれけりそれとろう
中上旬すい新年より出板　わ　かしきろべくは

方言修行金草鞋
　此次の部そうし

かまうらの部ゑろのどらも白山さえはいそれ
ようちよぞく下泉ゆくいうするすでにある
近日梓行

全六冊

十返舎一九作 (貞)

歌川國安画

早稲田大学図書館
011688991945